



帰国生の学校選び A to Z

●第49回●

帰国後の入学や編入に現地校の
成績は重視されるのか

間もなく現地校も夏休みになり、年度末の成績が発行されます。この成績は帰国後の入学や編入のために提出する成績証明書に記載されるものです。中学入試では日本の小学校高学年に相当する4～6年生または5～6年生時の成績を記載したものが、高校入試では日本の中学校に相当する7～9年生分のが求められます。中学や高校の編入の場合には、編入時までの2～3年分のが必要になります。大学入試では日本の高校に相当する10～12年生分を記載したものを提出します。

では、現地校の成績は入試において重要なのでしょうか。入学者の選考は各校内にて極秘に行われていますので確実なことは分かりません。しかし、推薦入試やAO(アドミッションオフィス)入試では書類選考が重視され、現地校の成績が合否に影響します。中には出願書類提出時に日本の5段階評価の4以上を求める学校もあります。アメリカでは4段階評価が一般的なので、この場合のGPA(Grade Point Average)は3.2以上となります。

一方、公立高校入試では中学校の成績が重視されています。都道府県によって取り扱いはさまざまですが、履修した全9教科(国語、数学、理科、社会、英語、技術・家庭、音楽、美術、保健・体育)の評定平均値を点数化して、学力試験の点数と合算して合否判定をするのが一般的です。帰国生の場合は履修教科が異なるので、このような方法がとられないことも多いですが、国内生と同様に点数化されることもあります。ただし、点数化はしなくても、帰国生入試ではほとんどの学校で面接が課されますので、そのための資料として成績証明書が利用されます。また、成績証明書には、在籍期間中の活動の記録が記載されていないので、それに加えてクラブ活動やボランティア活動などの様子の報告書の提出が必要な場合もあります。さらに推薦書を求める学校もあります。これらの書類も面接に使用されますので、学校の成績のみでなく、課外活動にも積極的に取り組むことが大切です。

執筆者：丹羽 筆人 (名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

